

別記第四

六月廿九日以來、余は満腔ノ誠意ヲ以テ紳士的ニ互讓精神ヲ以テ御相談  
ヲ蒙リ、不孝ノ請君ノ答ル、願トシテ一面請君が交渉ヲ固執スレ  
タル當分ナリ罷業ナル旨、的ノ手做ヲ以テ會社ニ臨ミ、昨  
以來四五ノ三負業ハ堂業所ニ來リテ強制的回答ヲ求メラ  
ル、等請君ノ行為ハ意外ノ經過ヲ示サレ、余り會社ノ讓  
歩的協和ヲ冀視セシメ、以テ請君ノ固執ノ極ニツキ、余  
茲ニ於テ會社ニ社内ノ保異ヲ固ルル由ニ、本リ信リ左  
記ハ知テ解備致シ、又々即此引取リテ總ラク  
左記ノ一荷界

石沙井ノ三負請君ハ會社ノ意思ヲ解上ニ吐ハシ、  
初業亦亦初業ノ旨ニ、初業ノ旨ニ、協和ハ部上  
解備致ルユトナル

三負請君

大正十三年七月七日  
九三糖造株式會社

別記第五

揚示

二十七日以來、三負請君ノ御申出ニ、余誠意御懇請上致  
シ、余ハ不幸ニシテ、終ニ協和ノ理ニ至ラザリシト、誠  
ニ遺憾ニ極テアリ、余ハ於テ、誠意トナリ、又  
ニ、三負請君ノ御申出ニ、協和ノ旨ニ、期ハ、今ニ來ル  
ユトシ、信シ、又

作中ノ三負請君ハ能ク御懇請ノ旨ニ、讓歩具他ノ三程  
ノ旨ニ、止レ難ク、協和ヲアリ、又、一トシ、協和  
ノ旨ニ、三負請君ノ御申出ニ、何年ノ就業ニ、項キ  
タリ、又、  
大正十三年七月七日